

平成 28 年度 事業報告書

(第 25 期)

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

(設立許可 平成 3 年 12 月 20 日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団
大阪府枚方市招提田近 1 丁目 9 番地

平成 28 年度 実施事業の概要

本年度は、平成 28 年 2 月の理事会ならびに同 3 月に開催された評議員会において決定された事業計画書に従い、以下の事業を実施した。

I. 一般助成事業（事業管理費を含む実施額 2,144 万円、予算額 2,238 万円）

本年度は、年度計画に従い助成事業の中の 4 つの助成等を実施した。実施に当たっては、平成 28 年 5 月に助成事業の募集を開始し、応募締切日 7 月 20 日までに提出された申請書類を基にして 8 月 25 日に選考委員会を開いて審査分担を決めて採点が行われた。その結果に基づき選考委員会の推薦案をまとめ、12 月 6 日の理事会にて受贈者が決定した。贈呈式は平成 29 年 3 月 9 日にホソカワミクロン本社にて開催され、35 名の受贈者を含め 62 名の出席があった。

1) KONA 賞の授与（賞金配分額 100 万円）

本年度は 6 件の推薦があり、その中から東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授阿尻雅文氏に「超臨界水熱合成法の発明」の業績に対して KONA 賞が授与された。

2) 研究助成（助成金配分額 1,380 万円）

本年度は昨年度より大幅増の 195 件（昨年度は 150 件）の応募があり、その中から 23 件（昨年度は 22 件）の研究に対して助成することが決定された。研究助成については、採択率が 20%程度以上になることを目指しているが、本年度は、採点時に同点者が多くなったこともあり、採択件数は昨年度とほぼ同数となったが、応募件数が増大したことにより、研究助成の採択率は 11.8%（昨年度は 14.7%）に留まった。本年度は募集の開始時期を早めたり、助成金紹介サイトへの登録を増やしたこともあり、研究助成で昨年度比 30%、研究者育成援助で同 20%の申請増加がみられた。これを受けて本年度は一人当たりの審査件数を抑えるために、研究助成については、臨時審査委員 5 名を増員して審査が行われた。

3) 研究者育成のための援助（援助金配分額 300 万円）

本年度は 36 件の応募があり、選考委員会から 11 件の推薦があったが、第 2 回理事会の開催直前に 1 件の辞退があり、最終的に同理事会にて 10 件の採択が決定された。本年度は、採択者の中に、海外留学生 2 名が含まれていた。

4) シンポジウム等の開催援助（援助金配分額 30 万円）

シンポジウム開催援助については、粉体工学に関する国際的な会議の開催を援助することを基本方針とするものの、萌芽的な研究活動支援も必要であるとして、本年度は東京大学大学院医学系研究科鈴木特任准教授から申請のあった第 2 回核酸医薬 DDS 研究会の開催を援助することになった。

II. 特定事業（事業管理費を含む実施額 34 万円、積立額 150 万円）

当財団設立 25 周年記念の特定事業として、昨年度から積立てを行い、平成 28 年度に第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムを国内で開催し、海外からも講師を招聘して特別講演会を開催する予定であったが、諸状況の変化により、平成 28 年度は第 50 回粉体工学に関する講演討論会と共に特別記念講演会を開催し、平成 29 年度に第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムを海外で開催することになった。

この当財団設立 25 周年記念講演会では、特別講演として東京理科大学藤嶋学長より「酸化チタン光触媒とダイヤモンド電極」の題目で、酸化チタン光触媒機能の発見の経緯からその多方面にわたる応用の実例と発展の可能性ならびにダイヤモンド電極の作製法や特性について分かりやすくご講演頂いた。

平成 29 年度に延期となった第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムは、2017 年 10 月に米国での開催が決定し、テーマや講師、会場やスケジュール等の検討を行った。

III. 財団自主事業（実施額 1,259 万円、予算 1,159 万円）

1) 粉体工学に関する講演討論会の開催（実施額 517 万円）

第 50 回粉体工学に関する講演討論会のプログラムと講演要旨、申込書を添付した案内状を 6 月から配布すると共に、当財団ならびにホソカワミクロンのホームページに掲載して集客を図った。そして、同講演討論会を 9 月 13 日(火)に東京マリオットホテルにて、「豊かな未来社会を築く粉体技術」をテーマとして開催した。定員 150 名に対して、156 名の参加があった。本会の開催内容について、当財団のホームページに掲載(9/20)すると共に、KONA 誌 No. 34 (2017) に報告記事を掲載した。

なお、本講演討論会の企画は、粉体技術談話会（会長 高橋実 名古屋工業大学名誉教授）に委託して行われた。

2) 国際学術誌「KONA」の発行（実施額 742 万円）

本年度は、合計 22 件の論文（アジア 11 件、欧州 3 件、米国 8 件）を掲載した No. 34 (2017) を 1,100 部印刷し、平成 29 年 1 月 10 日付けで出版して、国内外の読者、大学、図書館等の関係者への発送を行うと共に、同日財団ホームページに出版の案内を行い、Web ジャーナルも掲載した。

平成 29 年 2 月 8 日にアジアブロック編集委員会を開催し、次号 No. 35(2018)の出版に向けて、14 本の推薦論文の提案があり、昨年度に未掲載の推薦論文を含めて、執筆可否の問合せを行った。なお、本誌は既に J-STAGE に掲載され、昨年度末にオープンアクセス化されたが、本年度は、日本科学技術振興機構（JST）の支援を受けて、オンライン投稿査読システムの導入が採択され、平成 29 年度からの運用を目指して準備を進めた。

IV. 年報の発行（実施額 77 万円、予算 50 万円）

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果等を公表するために発行される。年報 No. 23(2015)は、平成 27 年度の活動状況報告を中心としたもので、平成 25 年度研究助成成果報告 30 件と平成 26 年度研究者育成のための援助成果報告 9 件を掲載し、平成 28 年 5 月に発行した。なお、当財団の年報は平成 20 年以降、冊子での発行を取り止め、ホームページでの掲載のみとなっている。

以上